

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	NPO法人リアン LEGON Kids+		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動内容が豊富であり、年齢や特性に合わせて様々なことに挑戦することができる	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な児童に活動内容についての要望を聞き取り、希望に沿った形で療育を展開する 様々なカリキュラムを提案し、選択する楽しさや挑戦する気持ちを養う 毎月活動内容を変更し一人一人が自分に合った活動を見つかることができるように促す 	<ul style="list-style-type: none"> 修学前準備として様々な教材を用意し実施する事で楽しみながら学ぶことができる環境を整える
2	事業所内が清潔で、心地よく過ごせる環境になっており、活動に合わせてスペースを使い分けることができる	<ul style="list-style-type: none"> 常に事業所内を清潔に保つことができるように清掃業務に力を入れている 活動や児童数に合わせた空間を提供することができるように、部屋を区切り、空間を分けている 児童が自ら考え活動を展開することができるように知育玩具の設置や空間遊びが行えるスペースを設けている 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生面の強化を図り、清掃頻度を高め、より清潔で安全な事業所を目指す 児童に伝わりやすい形で衛生面について伝え、基本的衛生観念を持つことができるように促す
3	生き物や植物に触れ、命あるものに興味をもち、命の大切さを知ることができる環境がある	<ul style="list-style-type: none"> 児童が日頃過ごしているスペースに飼育環境を設け、気軽に生き物に触れ合える環境を作っている 季節ごとの農業体験を行い、食物の収穫を行うことで食育につなげる 生き物のお世話を行う中で命の大切さ、尊さを知ることができるように促す 	<ul style="list-style-type: none"> より様々な生き物と触れ合う機会を設け、生命に対する興味・関心を促す 植物園や動物園への外出レクを行い、生命についてより詳しく学ぶ機会を設ける

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者交流会の回数が少なく、参加する事が出来ない家庭がある	<ul style="list-style-type: none"> 保護者様の就労状況が多様で日程調整が難しい 開催方法が現在は対面のみで、小さなお子様がいる家庭は参加が難しい 職員側の企画・準備時間の確保が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> zoomでの開催等を検討し、より多くのご家庭に参加して頂けるようにする 職員間で予め年間スケジュールに保護者交流会の日程を加え、十分な準備期間を確保する
2	地域交流の機会が少ない	<ul style="list-style-type: none"> 地域イベント情報の収集が体系化されていない 地域連携の担当者が明確でない 交流の目的と安全性が明確でない 	<ul style="list-style-type: none"> 地域イベント、地域連携の情報収集担当者を決める 交流の目的と安全性について話し合いの場を設け、実現可能か検討する
3	安全対策や緊急時の対応についてわかりやすい説明が行っていない	<ul style="list-style-type: none"> 書面や文書の共有のみで具体的なイメージをお伝えできていない 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者交流会等で定期的に、安全対策・緊急時対応の共有を行う 避難訓練の様子等を写真で共有し、具体的な避難方法を伝える